

眼科

■ スタッフ

科長	近藤 峰生
副科長	松原 央
医 師	常勤 20 名 非常勤 10 名
視能訓練士	9 名

■ 診療科の特色・診療対象疾患

眼科の特徴

三重大大学眼科では、現在、あらゆる眼科疾患（眼窩疾患分野を除く）に対して、診断と治療をおこなっています。

初診外来は、月曜日から金曜日の 8:30～11:00 となります。特に、火曜日と水曜日の教授外来には、難治性の網膜疾患の方を中心に全国から患者さんが受診されています。再診は、予約制となっています。

三重大大学眼科が得意とする疾患は、網膜硝子体疾患（糖尿病網膜症、網膜剥離、黄斑円孔、黄斑前膜などの診断と手術治療）、加齢黄斑変性（抗血管新生療法、光線力学的療法）、網膜変性疾患（網膜色素変性、黄斑ジストロフィーなどの診断とリハビリテーション）、角膜疾患（角膜外傷、角膜ジストロフィー、角膜混濁に対する角膜移植術）、涙道疾患（鼻涙管閉塞に対する内視鏡手術や耳鼻科との合同手術による涙嚢鼻腔吻合術・鼻内法）、緑内障（難治緑内障に対する手術治療）、白内障（小切開超音波白内障手術）、斜視・弱視（屈折矯正と斜視弱視訓練及び手術）、小児眼科（先天白内障、先天緑内障、未熟児網膜症などの小児眼疾患）、ぶどう膜疾患（サルコイドーシス、ベーチェット病、原田病など）です。

また、眼科医が 24 時間 365 日院内待機をしている 県内では数少ない病院の一つで、特に眼外傷の緊急手術など、眼科二次救急を担当しています。

■ 診療体制

主な専門外来

三重大大学眼科では、特に専門的治療が必要な疾患、治療の困難な疾患、頻度の高い疾患については専門外来を設け、その分野についてのエキスパートが治療を担当します。

1) 教授外来

近藤教授の外来には、難治性眼疾患の患者さん

をはじめ、全国からあらゆる眼科疾患の患者さんが受診されていますが、特に教授の専門分野は、網膜硝子体疾患、網膜の機能評価（臨床視覚電気生理）です。

2) 網膜硝子体外来・糖尿病外来

網膜剥離、黄斑部疾患（黄斑上膜、黄斑円孔、黄斑浮腫、中心性漿液性網脈絡膜症など）、網膜静脈閉塞症、網膜動脈閉塞症、増殖硝子体網膜症、硝子体出血などの診断および治療をおこないます。特に重症型糖尿病網膜症、日本でも中途失明原因の上位となっている加齢黄斑変性という網膜の中心部に異常を来す疾患の専門治療もおこないます。手術治療が中心となることが多いですが、加齢黄斑変性に対しては、蛍光眼底造影検査などによる正確な診断と硝子体注射と呼ばれる眼内注射治療および光線力学的療法をおこなっています。

3) 緑内障外来

日本でおこなわれた大規模調査によると、40 歳以上の日本人では 20 人に 1 人の割合で緑内障患者が存在すると言われています。また日本における失明原因のトップは緑内障です。緑内障外来では、最新の検査機器を使った早期診断から長期的な点眼治療、重症例に対する手術治療まで緑内障のトータルケアをおこないます。

4) 角膜外来

角膜感染症（細菌、真菌、ウイルスなど）、ドライアイ、円錐角膜、水疱性角膜症や遺伝性の角膜疾患などの診断と治療をおこなっています。特に角膜感染症の迅速診断や角膜移植治療を積極的にこなっています。

5) コンタクト外来

円錐角膜や角膜の強い乱視などの眼疾患があり、通常のコンタクトレンズができない方を対象に経験豊富な角膜専門医がコンタクトレンズの処方をおこないます。

6) 涙道外来

成人の鼻涙管閉塞症、乳幼児の先天鼻涙管閉塞症に対し、涙道内視鏡を用いた検査及び治療をおこなっています。また、当院耳鼻咽喉科とも連携し、流涙症に対し顔に傷が残らない涙嚢鼻腔吻合術鼻内法をおこなっています。

7) 小児眼科外来

視機能発達の重要な時期にある小児が罹患する斜視、弱視、先天白内障、先天緑内障、未熟児網膜症などの疾患の診断、治療をおこないます。また、視能訓練士という国家資格を有する9名の専門スタッフが丁寧に時間をかけて小児の検査・訓練をおこないます。

8) ロービジョン外来

現在の視機能を評価し、読み書きのための道具（ルーペ、拡大読書器、音声パソコンなど）の選定、白杖、日常生活補助具の紹介や身体障害者手帳申請の相談、視覚障害者用社会福祉関係の施設や職能訓練施設の情報提供などをおこなっています。

ロービジョン外来は、完全予約制です。

9) 神経眼科外来

視神経炎、虚血性視神経症、遺伝性視神経症、甲状腺眼症、重症筋無力症、眼瞼痙攣、眼窩炎症性疾患等を扱っています。

毎月第2木曜日の午前に非常勤講師の前久保医師と当院医師で担当しています。

3) 外来及び入院での手術及び眼注射件数 (件)

	2024 年度
総手術件数	2,225
硝子体注射	2,557
テノン嚢注射	90

*総手術件数には硝子体注射及びテノン嚢注射を含みません。

4) 主な施行手術と件数 (件)

手術名	2024 年度
硝子体手術	345
網膜復位術	15
白内障手術	936
角膜手術	135
緑内障手術	265
斜視手術	96

■ 治療実績

1) 外来患者数 (人)

	2024 年度
総外来患者	28,324
総初診患者	1,582
県外からの紹介患者	59
小児(15歳以下)の紹介患者	169

*2024年度は眼底三次元画像解析検査12,021件、涙管チューブ挿入80件などを外来にて施行

2) 入院患者数 (人)

	2024 年度
総入院患者(人)	5,459
平均在院日数(日)	3.5

■ 臨床研究等の実績

当科からの論文発表や学会発表実績は以下の通りです。(2024年度の代表的なもののみ掲載)

<英語論文>

●Matsubara H, Chujo S, Mase Y, Muramoto Y, Kato K, Kondo M: Effects of angle of incidence of stimulus light on photopic electroretinograms of zebrafish larvae. Sci Rep14: 14733. 2024

●Chujo S, Matsubara H, Ichio A, Matsui Y, Sugimoto M, Kondo M: Three cases of acute retinal necrosis with atypical fundus findings. Retin Cases Brief Rep 18(3):308-311. 2024

●Chujo S, Matsubara H, Matsui Y, Kato K, Kondo M: Case of acute retinal necrosis with rapid progression to proliferative vitreoretinopathy: A case report. Medicine (Baltimore) 103(20):e38150. 2024

●Chujo S, Matsubara H, Kawakami H, Kato K, Kondo M: Function and Circulation of the Retina and Choroid in Case of Indolent Nonprogressive Multifocal Choroidal Lesions. Cureus 16(6):e61962. 2024

● Chujo S, Matsubara H, Mase Y, Kato K, Kondo M: Recurrence Rate during 5-Year Period after Suspension of Anti-Vascular Endothelial Growth Factor Treatment for Neovascular Age-Related Macular Degeneration. J. Clin. Med 13(15):4317. 2024

● Kashima Y, Kato K, Chujo S, Nagashima R, Co, Matsubara H, Matsui Y, Tenma Y, Sugimoto M, Kondo M: Transient increase of flicker electroretinograms after combined cataract surgery and vitrectomy for idiopathic epiretinal membrane. Sci Rep 14(1):23634. 2024

● Mase Y, Matsui Y, Imai K, Imamura K, Irie-Ota A, Chujo S, Matsubara H, Kawanaka H, Kondo M: Preoperative OCT Characteristics Contributing to Prediction of Postoperative Visual Acuity in Eyes with Macular Hole. J. Clin. Med 13(16): 4826. 2024

● Yamada F, Kato K, Nagashima R, Yonekawa Y, Kashima Y, Kondo M: Case of persistent corneal epithelial damage after cataract surgery leading to diagnosis of vitamin A deficiency. Doc Ophthalmol 148(2):121-128. 2024

● Inamoto S, Matsubara H, Uchiyama E, Kato K, Kondo M: Choroidal Osteoma With Choroidal Excavation Due to Decalcification Five Years After Photodynamic Therapy: A Case Report. Cureus 16(5): e59581. 2024

● Hata N, Chujo S, Matsubara H, Kato K, Kondo M: Expansion of the MIRAgel Scleral Buckle With Findings Resembling Necrotizing Scleritis: A Case Report. Cureus 16(11): e73409. 2024

<邦文論文>

● 今野恵一郎、杵本昌彦、乙田泰志、田中康平、佐々木拓、中条慎一郎、松井良論、加藤久美子、松原央、佐宗幹夫、近藤峰生：続発性網膜剥離のため眼局所治療が困難であった chronic necrotizing retinitis の 1 例. 臨眼 78 (5) : 562-568. 2024

● 宇佐美勇輔、生杉謙吾、布目貴康、田中康平、加藤久美子、近藤峰生：眼内レンズ偏位を伴う落屑緑内障眼に対する眼内レンズ強膜内固定およびマイクロフックトラベクトミー同時手術. 眼科 66 (5) : 479-485. 2024

● 水谷凜一郎、杉本昌彦、原田純直、佐々木拓、中条慎一郎、天満有美帆、松井良論、松原央、近藤峰生：当院での

COVID-19 陽性裂孔原性網膜剥離に対する手術経験 - COVID-19 陽性患者手術時の留意点について-. あたらしい眼科 41 (5) : 580-585. 2024

● 松井千瑛、生杉謙吾、一尾多佳子、竹内真希、加藤久美子、近藤峰生：ロービジョン者における支援と視機能の関連. 臨眼 78 (7) : 835-841. 2024

<英文書籍>

● Ikesugi K : OPTIC DISC CHANGES IN GLAUCOMA PROGRESSION. Asia Pacific Glaucoma Guidelines Fourth Edition: 48-58. Asian Pacific Glaucoma Society. 2024

<邦文書籍>

● 近藤峰生：7) AZOOR 関連疾患. 新篇眼科プラクティス 13 III.疾患と視野障害：186-189. 文光堂. 2024.4

● 近藤峰生：2) 遺伝性疾患 ②先天停在性夜盲. 眼科診療ガイド 9.網膜：351-352. 文光堂. 2024.11

● 近藤峰生：2) 遺伝性疾患 ③小口病. 眼科診療ガイド 9.網膜：352-3. 文光堂. 2024.11

● 近藤峰生：2) 遺伝性疾患 ⑪三宅病（オカルト黄斑ジストロフィ）. 眼科診療ガイド 9.網膜：365. 文光堂. 2024.11

● 近藤峰生：先進医療. 新篇眼科プラクティス 17 V.保険診療：332-333. 文光堂. 2024.11

● 加藤久美子、近藤峰生：3) 多局所 ERG. 新篇眼科プラクティス 13 II.視野検査各論：123-126. 文光堂. 2024.4

● 加藤久美子：電気生理学的検査. 新篇眼科プラクティス 17 II.診療の手順：158-159. 文光堂. 2024.11

（その他の業績等は、下記の三重大眼科公式ホームページをご覧ください。）

 <http://www.medic.mie-u.ac.jp/ophthalmology>